



No. 132

ティーブレイク

Tea Break

馬鹿と阿呆

東京人は馬鹿と言われるよりも阿呆と言われれば腹が立つと言われています。

大阪人は阿呆と言われるよりも馬鹿と言われれば腹が立つと言われています。

馬鹿と阿呆の意味の相違は殆んどなく、ほぼ同じ意味ですが、ニュアンスの違いがあります。

また、自分が馬鹿（阿呆）だと思っている人に馬鹿（阿呆）と言えば、顔面を張られます。

してみれば、東京人は、自分を阿呆だと思っている人が多く、大阪人は自分を馬鹿だと思っている人が多いと思われれます。

いずれにしても、馬鹿と阿呆（アホ）の用い方の相違を比較することは面白いです。

(1) 馬鹿を用いてアホは用いられない場合

親馬鹿、専門馬鹿、馬鹿さわぎ、馬鹿デカイ、天才バカボン、ネジが馬鹿になる等

(2) アホを用いて馬鹿には用いられない場合

アホくさい、男ドアホ甲子園、アホらしい等

(3) 馬鹿、アホの両方とも用いられる場合

馬鹿（アホ）息子等

(3) は共通するので省略して (1) (2) について述べます。

もともと、馬鹿の語源は、中国の史記に記載に基づいて、秦の時代の宦官趙高が、鹿を見て「馬だ」と言ったところ、「間違っている」と正した人の首を刎ねたということからだとされています。理不尽なことをする人を馬鹿というようになったようです。日本でも室町時代までは、狼藉者の意味で使われていました。現在の意

味になったのは、江戸時代からだと言われています。

通常の状態と違った異常の状態を馬鹿というのは、古今から現在までも通じている意味合いです。

阿呆については、三国史時代の劉備玄徳の愚かな息子「阿斗（後の劉禅）」からきていると言われています。親より能力が劣る息子が元々の意味です。能力の劣る息子に任せると傾国に繋がるという意味があるようです。

これが、馬鹿と阿呆（アホ）に流れる古今東西の底流です。

してみれば、東京人はハメばかり外すことはしないので、馬鹿と言っても怒らないが、大阪人はハメばかり外しているのです、馬鹿と言えば顔を張られます。

東京人は、親より能力的に劣ると思っているので、阿呆と言われれば激怒します。

反対に、大阪人は反発心旺盛で、親なんか何とも思っていないので阿呆と言われても平気の平左です。

阿呆と言われても怒り馬鹿と言われても怒る人は、親より劣り羽目を外しまくる人で、こんな人には、どう相手したら良いでしょうか？

阿呆と言われても怒らず馬鹿と言われても笑っている人は、親より賢くて、常識な人ということになりますが、なりたいですか？

さて、馬鹿と言われたらいいですか？阿呆（アホ）と言われたらいいですか？

(TomToc)